

記入例

※20号タンクも、この様式を使用します。

様式第4のハ（第4条、第5条関係）

屋外タンク貯蔵所構造設備明細書

事業の概要		1 油槽所			
2 貯蔵する危険物の概要		引火点	40℃	貯蔵温度	常温℃
3 基礎、据付方法の概要		20mPC杭6本打設し、その上に1.5m鉄筋コンクリート造の基礎を設ける。タンクは、底板の縁をボルトにより基礎と固定させる。			
タンクの構造、設備	形状 4	縦置円筒型		5 常圧・加圧 (kPa)	
	寸法 6	内径 5000mm 高さ 4500mm	容量 7	80kl	
	材質、板厚 8	底板 9.0mm , 側板 6.0mm , 屋根板 4.5mm アニュラ板 9.0mm 全て SS400			
	通気管 9	種別	数	内径又は作動圧	
		無弁通気管	1	100 mm kPa	
	安全装置 10	種別	数	作動圧	
		なし		kPa	
液量表示装置	フロート式 11	引火防止装置	☑ ・ 無 12		
不活性気体の封入設備	なし 13	タンク保温材の概要	なし 14		
注入口の位置		防油堤の南側 15	注入口付近の接地電極	☑ ・ 無 16	
防油堤	構造		容量	排水設備	
	鉄筋コンクリート造 17 (高さ1000mm 厚さ 150mm)		100kℓ	防油堤内に集水ますを設け防油堤外に弁を設ける	
ポンプ設備の概要		18 ギャーポンプ (0.5Mpa, モーター2.2 kW) 2基 (耐圧防爆構造)			
避雷設備		19 S-A4201 : 2003 による 保護角法 (突針 1本)			
配管		20 STPG黒 さび止め塗装			
消火設備		21 第3種消火設備 (泡消火設備) 移動	タンクの加熱設備	22 なし	
工事請負者住所氏名		23 ○○県○○市○○町○○番地 ○○設備 (株) ○○○○ 電話○○○○—○○—○○○○			

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

[構造明細書記入要領]

- ア 各欄の該当しない部分は、「/」、「—」、「なし」等を記入し、該当する部分がないことを明確にする。
- イ 製造所又は一般取扱所の20号タンクの場合は、2から17までについて上記に従って記入し、そのほかの欄は斜線を記入する。
- 1 事業の概要は、貯蔵所が設置されている事業所の事業内容を記入する。
(例) 油槽所
化学薬品製造業
石油精製業
 - 2 貯蔵する危険物の概要は、タンクに貯蔵する危険物の引火点及び貯蔵される危険物の最高温度を記入する。
なお、常温で貯蔵する場合は、常温と記入する。
 - 3 基礎、据付方法の概要は、タンクを設置する位置の基礎施工方法及びタンク据付方法を記入する。
(例) 20mPC杭6本を打設し、その上部に1.5mの鉄筋コンクリート造の基礎を設ける。
タンクは、底板の縁をボルトにより基礎と固定させる。
 - 4 形状は、縦置円筒型、横置円筒型、角型、楕円型等を記入する。
 - 5 常圧・加圧は、タンクの貯蔵方法を○で囲み、加圧の場合は圧力を記入する。
なお、常圧とは、正圧又は負圧で5キロパスカルを超えないもの。
 - 6 寸法は、次の項目を記入する。
 - ・ 縦置円筒型は、内径及び側面板の底部からトップアングルまでの高さ
 - ・ 横置円筒型は、内径、胴長、鏡出及び全長
 - ・ 角型は、縦、横、高さ
 - ・ 楕円型は、長さ、幅、高さ、最大幅等特徴的な部分の長さ
 - 7 容量は、危政令第5条第2項に規定するタンクの容量を記入する。
なお、製造所又は一般取扱所に設ける20号タンクで、危政令第5条第3項に規定する一定量を超えることがないタンクは、一定量を記入する。
 - 8 材質、板厚は、タンクのそれぞれの部分の材質及び板厚を記入する。
なお、材質は、JIS記号を記入する。
 - 9 通気管は、タンクに設置される通気管の種別、設置数、内径を記入する。
なお、大気弁付通気管の場合は、作動圧についても記入する。
 - 10 安全装置は、タンクが圧力タンクの場合に安全装置の種別、設置数、作動圧を記入する。
 - 11 液量表示装置は、タンクに設置された液面計の型式等を記入する。
 - 12 引火防止装置は、有・無のいずれかを○で囲むよう記入する。
 - 13 不活性ガスの封入設備は、タンクに不活性ガスを封入する設備が設けられる場合にその概要を記入する。
(例) 専用配管を接合し、タンク内圧が〇〇Pa以下となれば窒素ガスの封入を行う。
 - 14 タンク保温材は、タンクの外面に保温材がある場合に、保温材の種類及び施工方法等を記入する。
(例) ウレタンフォーム吹き付け
 - 15 注入口の位置は、タンクに移動タンク貯蔵所等から受け入れる口がある場合に該当する注入口の設置場所及び防油堤の内側か外側かを記入する。
なお、製造所から配管により受け入れる場合等は、「なし」又はその旨記入する。

(例) 防油堤内南西側

〇〇棟 (製造所) から配管で注入

16 注入口付近の設置電極は、有・無のいずれかを○で囲むよう記入する。

17 防油堤は、構造、容量及び排水設備を記入する。

なお、排水設備は、防油堤に集水ますを設け防油堤外の排水弁を設ける等概要を記入する。

18 ポンプ設備は、タンクに受け払いを行っているポンプの種類、最大吐出圧力、原動機の種類等及び設置数並びに防爆構造の種別又は記号を記入する。

19 避雷設備は、J I S A 4 2 0 1 で示される保護手法 (回転球体法、保護角法、メッシュ法) 及び受雷部 (突針、水平導体、架空地線、避雷導体) を記入する。

なお、他の建築物等に設置されている避雷設備の保護範囲内であるため、製造所等に避雷設備を設置しない場合は、括弧書で他の建築物等の名称及び避雷設備の概要を記入する。

20 配管は、製造所等で使用する配管すべてについて材質、外面保護等を記入することとし、J I S 記号を記入することもできる。

21 消火設備は、製造所等に設置される消火設備について、危政令別表第5に規定する区分、設備名、設置数等を記入する。

(例) 第4種消火設備 (大型〇〇消火器 20 kg) 1 個, 第5種消火設備 (〇〇消火器 10 型) 5 個

22 タンクの加熱設備は、設置された加熱設備の概要、加熱媒体、温度等がわかるよう記入する。

(例) ボイラーによる蒸気を配管により、20号タンクのジャケットに接続し、70度に加熱する。

23 工事請負者住所氏名は、工事請負者の住所、氏名 (法人は、主たる事業所の所在地、法人名及び担当者名) 及び連絡先の電話番号を記入する。